伝えよう・広げよう・キリストの心を

共に生きる

聖家族有志会報

社会と教会
生活と信仰
平和・人権
分かち合い

No.20

編集／〒806-0049　北九州市八幡西区穴生1-8-10 アドラック内　／瀬下幸弘

みなづき
水無月
6
2012

テーマが決定（北九州平和の集い実行委員会が発表）

尊いいのち・新しい生き方を

―いますぐ原発の廃止を―

（日本カトリック司教団メッセージ）

日本カトリック平和旬間に向って→

今年は8月12日(日)を平和の集いとして、北九州地区全教会で午前中は平和祈願ミサ、午後に平和の集いがカトリック小倉教会で開催されます。平和の集い実行委員会では、テーマを決定するにあたり、全員で司教団メッセージ「いますぐ原発の廃止を」を読み合わせ分かち合いました。様々な意見が出され、「原発問題はエネルギー不足問題との対比ではなく、いのちとの対比で考えよう」となり、提案された「尊いいのち・新しい生き方を」が全員一致で決定されました。

また、今年のメインとなる話し手には、カトリック広島教区長の前田万葉司教が来られます。今後、平和旬間に向け各教会や地域においていろいろな取り組みがなされることでしょう。

広島教区長 前田司教

ACO平和講演会

6月3日(日)ミサ後

テーマ

「南京虐殺の真相とは」

講師　秋吉久紀夫先生

どなたでもご参加下さい。

ハンセン病療養所訪問記

4／30、21名参加

阿部智子さんのお話

6pに掲載

“13才の時に死を決意し、隔離の療養所へ…それから56年”

「お話を聞き、心に迫るものを感じました。この企画に感謝」（参加者の声）

お知らせ（信徒協関連は3p掲載）

- ◆6月3日(日) 平和講演会、秋吉先生　…ミサ後
  午後、秋吉先生を囲んで交流～3時位。
  ACOは下関労働教育センターで練成会。
- ◆6月9日(土) 強制連行の足跡を辿る(下関)…13時
  問い合わせは編集部までFAX622-1290
- ◆6月10日(日) 英語ミサと交流(黒崎)　…15時
- ◆6月11日(月) イチイチ祈りの会 援助修道院 …19時
- ◆6月11日(月) 社会福音部会(テレジア) ……19時
- ◆6月16日(土) 教区信徒協研修会準備(大名町)…13時30分
- ◆6月17日(日) 沖縄返還40周年母親大会
- ◆6月23日(土) 九条守りたい(西南KCC)　…14時
- ◆6月24日(日) 虹の会(分かち合い)　……ミサ後

マザー・テレサの祈り

あなたの中の最良のものを

助けた相手から、恩知らずの仕打ちを受けるでしょう。
気にすることなく、助け続けなさい。

援助修道会　修道院より

6月11日:イチイチ祈りの会

場所は**修道院聖堂、午後7時**から。
どなたでもお出でください。

イチイチ祈りの集い（援助修道会4/11日）で読まれた手紙です。

読んで下さい

福島の子どもたちからの手紙

（KIDS VOIS編・朝日新聞出版より）　紙面の都合で部分抜粋しています。

●菅そうりだいじんへ。ぼくはしょう来サッカー日本だい表になりたいです。でも今の福島では、いっぱい練習できません。いつになったらほうしゃのうはなくなりますか。僕は大人になれますか？早く外であそびたいです。家ぞくがはなれてくらすのもいやです。友だちとはなれるのもいやです。どうか僕たちをたすけてください。

福島市　小3

●おれたちは、なぜみんなとはなれないといけないんですか。いみがわかりません。ほうしゃのうをなくすきかいをつくってください。おねがいします。みんなをなんでこんなびょうきにするんですか。おねがいですからなんとかしてください。おねがいしますのでおねがいしますね。

1年2組　琉

●福島の子どもたちがプールにも入れず、マスクして登下校しているこの状況を安全だと言い張る政府に私はとても疑問を感じます。今まで法律で決まっていた数値を何十倍にも引き上げて、それが安全だと言われても、私には信じられません。そんなやり方は私たち中学生の間でも通用しないでしょう。福島県民よりもお金のほうが大切なのですか。大人が勝手につくった原発で、なぜ、福島の子どもたちが被曝しなくてはならないのか、なぜ、こんなつらい目にあわなくてはいけないのか、これほどの事故が起きても、どうしてまだ原発再開を目指すのか、わたしにはまったくわかりません。このような状況を総理大臣が替わっても良い国が作れるとは思いません。

福島県三春町　橋本伽爺　13才

●先生から聞いた話では、福島ナンバーの車があるガソリンスタンドで「入れられません。」その一言だけ言われた。私はなんで同じ日本人なのに、同じ人なのに、なんで協力しようとしない？なんで今のことを受けとめてくれない？

福島市　中2　女子

●福島の食べ物には、ほうしゃのうがあって、食べられない。福島のほとんどが、東京電力にとられてしまい、福島は、もうぜつぼう的。みんな「福島がんばろう」と言っているけど、さい玉や東京は「福島の人はほうしゃのうがあるからいやだ」。と言ってさべつされ、とってもかなしい。こういうときこそ日本が１つになればいいのに、そうはどうしてもならない。だから福島だけでも1つになってしん災や災害に負けない福島、笑顔のあふれる福島、世界にほこれる平和な福島を作りたい。　福島市　小5　れん

広島教区 三末篤實名誉司教から 北九州ACOに 手紙が届く

1冊400円

この度は「働く人」をいただき有難うございます。みなさん、よくがんばっておられますね。敬意を表します。…お祈りは忘れません。大変複雑な国家、社会となっていますが、みなさんのご活動がよき実を結ぶことができますようにお祈りしています。…

五月十七日　三末篤實

日本カトリック正義と平和協議会ニュースより

英語版ができました

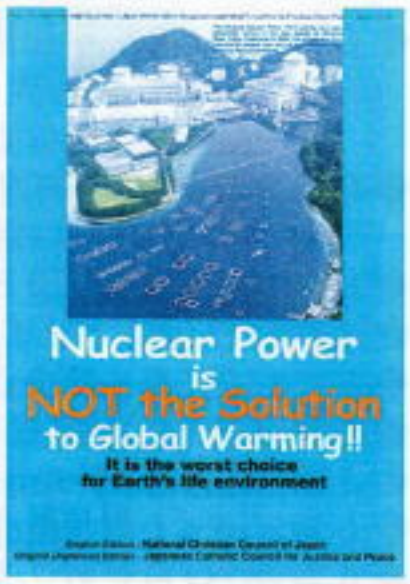
『原子力発電は“温暖化”防止の切り札ではない！地球上の生命環境にとって最悪の選択…』

「カトリック教会が発行したこの素晴らしいリーフレットを、英文にして発行したい」との日本キリスト教協議会の熱意と尽力が実って英文の発行に至りました。

英語版申込みは
03-3203-0372
（日本キリスト教協議会）

日本語版申込みは
03-5632-4444
（日本カトリック正義と平和協議会）

1部20円＋送料



紹介します　待望の晴佐久神父様のミサ説教をはじめ、7つの新番組が始まる

2012年4～9月 キリスト教放送局FEBC 新番組ガイド

語られる
御言葉が
私たちのうちで
命となります
ように

AMラジオ放送
AM1566kHz
毎夜9:30～全国放送

インターネット放送
www.febcjp.com
毎日更新

検索して下さい。

【話し手と時間の一部を紹介】　問い合わせは編集部までFAX下さい。

- 晴佐久昌栄（カトリック司祭）　毎週月曜夜10:15～（主日の福音ミサ説教から）
- 石居　基夫（ルーテル学院大学准教授）　毎週水曜夜09:48～いちじく桑の木登り
- 藤盛　勇紀（日本基督教団総務監事）　毎週水曜夜09:48～暗闇の中の光
- 岩島　忠彦（カトリックイエズス会司祭）　第１金曜夜09:30～キリスト教は生き方です
- 熊澤　義宣（東京神学大学元学長）　第２金曜夜09:38～聖書の伝える終末の希望
- 関根　一夫（MACF牧師）　毎週月曜夜10:03～「いてくれてありがとう」

北九信徒協

信仰育成部会／6月17日（日）14:00～小倉教会
平和の集い子どもの広場について

聖書講座／6月17日（日）14:00～小倉教会
今田昌樹神父

典礼部会／6月24日（日）14:30～小倉教会
年間行事打ち合わせ
平和祈願ミサ8/12について

小倉教会／「教会学校」の名称を変更します。
詳しくは、信徒協広報紙7月に掲載予定。

ひと息コーナー

この花の名前を知っていますか？

西洋小田巻

芍　薬

あなたの笑顔が素敵！
元気そうな男の子…
いえいえ女の子です。
7ヶ月と3才の姉妹

キリスト者・九条報告

憲法九条は子どもたちへのプレゼント

5月3日（憲法記念日）第２回 北九州９条まつり開催

空模様が心配されましたが、少し肌寒さを感じた雨あがりの５月３日に、勝山公園で開かれました。２回目となった北九州９条まつりは、昨年の倍の市民が集いました。在日二世の方の素晴らしい歌で始まり、うたごえグループの大合唱、市内７つの九条の会によるアピールなどが行われました。また大声大会では、日頃のうっぷんを晴らすかのように、参加者たちはユニークな訴えを叫んでいました。最後は全員による憲法前文の唱和で締めくくり、憲法９条を守っていこうと確かめ合いました。出店では、エルピスのパンが予想通り大好評で完売したほか、キリスト者九条の会のピースメモや９条ボールペンも好評でした。

このような市民集会で、“キリスト者”としてのアピールができるようになったことは、嬉しい限りです。今後も、より多くの福音の種を人々の心に蒔きたいと思います。（R）

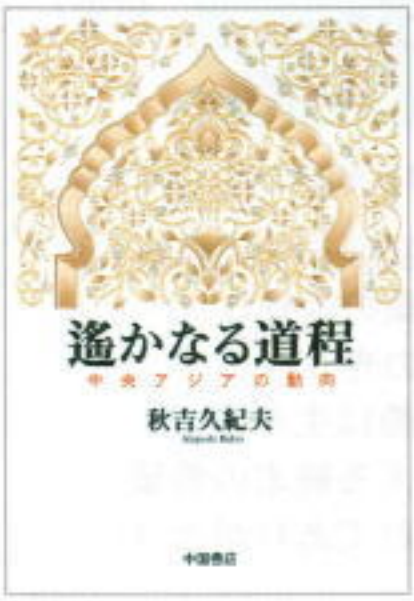
まつり広場で平和の木が実りました。

書籍紹介

秋吉久紀夫先生の講演録

遥かなる道程 中央アジアの動向

中国書店
本体1800＋税



あとがき（全掲）

最近の世界の雲行きを眺めていると、私は口を噤むわけにはゆかなくなってくる。

本書『遥かなる道程――中央アジアの動向』に収録した六篇は、私が二〇一〇年五月から二〇一一年七月までの約二年間に行った六回の講演をまとめたものである。

私が生まれたのは一九三〇年で、その時はちょうど繁栄を謳歌していた米国で「暗黒の木曜日」と呼ばれる一九二九年一〇月二四日から数日間の内に株価は大暴落し、商品はだぶつき物価も大暴落、あらゆる部門での生産は縮小され、経済活動は全面的に麻痺状態となった時期であった。この大恐慌の余波はただちに世界中の資本主義国に波及し、英米の平均物価は五割以上も下がり、数万の銀行に数十万の企業が倒産してしまった。個人や会社だけでなく、外債や内債の支払いさえも停止することによって、資本主義の国家は自ら破産宣告をしたのである。

この大恐慌は社会構造にも大変化をもたらし、中小の資産家は企業や株券・預金その他の財産を失い、農民も生産と生活の基盤を崩壊された。そしてこの不況の波は日本にも押し寄せたが、逆にこれをチャンスとばかりに中国の東北地区（旧満州国）に駐留していた日本の関東軍は陰謀を企て、奉天（現在の藩陽）郊外の柳条湖で鉄道を爆破し、満州事変を勃発。ここから日本は途方もない道程を歩かなくてはならなくなった。

二〇一二年二月現在、またも全世界が大不況に喘ぐ状況下、米国を含めアフガニスタンに兵を派遣している北大西洋条約機構（NATO）諸国は、治安維持の見通しも立たない中で財政難に喘ぎ、巨額の費用のかかる軍事作戦から早急に手を引きたいのが本音。

三八三二人の兵士を出しているフランスのサルコジ大統領は、二〇一二年一月二七日、アフガンで四人のフランス兵が殺害されたために、当初の計画より一年早い二〇一三年末に仏軍を完全撤退させると宣言。次いで九万(公表のみ)の兵を派遣している米国のパネッタ国防長官は、米国のアフガニスタンでの戦闘任務を二〇一三年後半に終了したいと表明。

だが、派遣国のこうした動きに逆行するかのように、日本の自衛隊は次々と世界の紛争地アフガニスタンにも南スーダンにも、送り込まれているのはなぜか。しかも派遣を合法化するための日本国憲法第九条の改正が、政界で密やかに語られているとは。

かって経験した過酷な戦争の果てに、やっと手に入れた果実をまたしても投げようとするのか。それは絶対に許すことはできない。

二〇一二年二月一八日

分かち合いのとき

5月20日　22名参加

虹の会

次回、**6月24日**

どなたでもご参加ください。

―「リフレーミング（角度を変えて人を見る）」―

五月の虹の会は「リフレーミング（角度を変えて人を見る）」というテーマで、分かち合いました。「嫌な人にも、何か良いところがあるはずだ」「これを子育ての時に知っていれば良かった」「性格の合わない人に対して、この人は神様の創造した作品の一つだと思うことで、嫌いな人を受け入れる事が出来た」など沢山の実りあるお話を分かち合うことが出来ました。

短所も行き過ぎなければ長所として捉えることが出来るという「愛のある気付き」を、参加者みんなで共有できた時間でした。虹色に輝く豊かな時間を、神様に与えていただいた事に感謝し、また来月の虹の会を楽しみにしております。（中岡浩史）

奄美大島訪問（3月3日）

奄美のカトリック教会の歴史から学んだもの(3)

瀬下幸弘

〈奄美における迫害と信教の自由について〉

前号の続き

・出エジプト時代の奴隷の家と国家神道を合わせると、全く同じ構図であることがわかる。天照大神を子孫とする万世一系の神々の子孫、そこに天皇がいる。天皇の下に神官（宣教使）、他に神祇局とか神社局とかこれが国の中に作られ、国家神道を中心的に動かしていくことになる。靖国神社、伊勢神宮皇紀2600年の出典、日の丸掲揚、国歌斉唱、こういうのがピラミッド（出エジプト時代の支配）と同じ構図となる。

・日本の国家神道は明治になって作られた。「天皇に神格を与え、神道を国教と定め、祭政一致の国とする」国家方針を明確に示し、これが基本路線として、戦争が終わるまでずっと続いた。明治憲法の信教の自由は安寧秩序を乱さない限り認める。そして臣民の義務をちゃんと果たせと言う。天皇の御真影に敬礼、礼拝、神社参拝する、というのが「臣民タルノ義務」に入っている。ここでキリスト教の一神教とぶつかる。そこで政府は、天皇を中心とする国家神道は宗教を超越した存在だから、宗教ではないとすり替えた。一般の宗教の自由は認めるが国家神道は、臣民の義務だから神社参拝は当たり前だというようになっていった。キリスト教はこれに反対し続け、おかしいという考えを持っていたが、政府や軍部からの迫害がひどくなった時、これを認めてしまった。

・国家神道では学校が布教の場となり学校に天皇の御真影や教育勅語、奉安殿を作らせ、現人神として天皇を礼拝し、天皇のために命を捧げる教育が行われてきた。そして植民地支配した朝鮮半島や台湾でも同様にし、治安維持法、不敬罪、宗教団体法などによって国民の人権や宗教団体などが弾圧されだした。侵略戦争を、聖戦と信じさせるために、国家神道はその中心的な役割を果たしてきた。

・植民地でも台湾神宮とか朝鮮神宮などが置かれ、公民化教育、皇国臣民の誓詞斉唱なども強制された。皇族、華族はエジプトの貴族、そして平民がおりその下に奴隷。奴隷の位置付けは、朝鮮半島など植民地支配された人達、半奴隷のようにして日本に強制連行されてきた人達、いわゆる「従軍慰安婦」にさせられた人達。ここに軍隊が大きな力を表わす。

・キリスト教や、社会主義者排斥、排撃運動などが起こる。学校が布教の場だから、神社参拝拒否事件というのは学校現場で起こっている。学校を背景とした国家神道布教だからこれに反する者たちへの排撃運動が、1945年位まで続く。

・奄美大島の中学生2人が神社参拝拒否で退学となったり、1934年、大島高等女学校（ミッションスクール）が廃校に追い込まれたり、そうして奄美の外国人宣教師追放、迫害の頂点につながる。（次号へ続く）

読者投稿

阪神ファン　ＫＴ

家族の一員であるセキセイインコ、今年三月、三羽雛が誕生し現在六羽になり、囀りによるロザリオの合唱もさらに賑やかになりました。

さて、創世記には『神は翼ある鳥をそれぞれに創造された。神はこれを見て「良し」とされた』そこで、神はそれらのものを祝福し『鳥は地の上に“増えよ”』と記されています。

ところで、誕生の様子ですが、まず、雛が生まれた時の大きさは小指の先より小さく素裸でした。その季節はまだ寒く、親鳥は羽の下での雛の保温と、口移しの給餌など懸命でした。ところが、このインコは、私の家に来たときはまだ雛でしたので親鳥から子育てを教わってはいませんでした。にもかかわらず、雛のための愛情のある姿や行動は、誰から学んだのでしょうか。

これらのインコを手にとり観察しますと、どれも羽毛の色や模様は美しく、その造形の巧妙さに驚いています。これは「良し」とされた神の言葉によるものと信じています。

今の時代、科学技術の発達でロボットの開発が進んでいます。しかし、この未来に生きる人であっても、この生きているインコを、人の手で創ることは出来ないと考えています。そこで、インコの命が、小さな卵から生まれる不思議さと、その子育て中の愛情ある行動は、神による天地創造のほんの一部分に過ぎないと、私は瞑想にふけっています。

ハンセン病問題から見えるもの

～差別の垣根を取り除くために～(1)

お話／阿部智子さん（菊池恵楓園入所者）の要約です。

ここは、隔離の歴史が100年続いた場所です。何故100年も続いたのか、何故人は差別するのでしょうか。行政がそういうように仕向けてきたのではないでしょうか。明治になり早く一等国として軍隊を持つ、そうしないと外国と肩を並べてゆけない。身体の丈夫な人は兵隊へ。富国強兵政策方針をたてました。役に立たない者は人間ではない。熊本県の本妙寺参道にたくさんのハンセン病者の物乞い姿を見て、イギリス人女性が施療院を建てましたが、いくら頑張っても数が多いので、その時の宰相に救済の手紙を出しました。明治政府は富国強兵方針だった為、逆に外国人に日本の恥（ハンセン病者の存在は野蛮国）を見られてはいけないと「法律」をつくり全国5ケ所に療養所を設置し隔離を始めました。昭和になってからも「癩予防法」を作り自宅にいる患者まで強制隔離をするようになりました。その頃国は戦争へと突き進んでいたので、戦争反対に対する口封じではなかったかと思います。イヤと言わせない強権でもって国民を縛ることが目的でしょう。法律を盾に本妙寺の患者たちを警察官が200人以上の態勢で捕まえ、その様子が大々的に報道されました。震えあがるような事態を見せつけることで国民の心を誘導していきました。今の社会も私には同じように見えます。ライ（ハンセン病）は恐ろしい、伝染する病気、近寄ってはいけないと宣伝したため、国民の心に浸透してしまいました。それが2003年の黒川ホテル宿泊拒否へと続きました。差別意識があぶり出され、誹謗中傷する手紙が届きました。

私は12才で発病し学校へ行かなくてよいと言われました。50数年後、同級生から「あなたの机とイスを校庭で焼いたよ」と知らされました。時間が経つにつれ、私の心は衝撃波のように騒ぎだしました。この思いから自分が逃れるために思ったことは、「机と椅子だけでなく、学校全体を焼けばどうだろう」などと考えたりしました。母は私を終生隔離の収容所へはやりたくなかったので、家庭内隔離を考えたが、自分の存在が家族に重い負担となっていました。兄や姉たちは他の人から意地悪く言われるようになり私も母もさんざん苦しみました。自分がいなくなれば家族が助かるのではないかと思い、死に方を考えましたが、病死以外は警察の検死があり報道されてしまいます。13才で死を決意したので、隔離療養所へ行こうと、自分を墓に埋める心境でここに来て、56年が経ってしまいました。2001年に私たちにとって嬉しい熊本地裁判決が出されました。隔離の法律こそが憲法違反で「国には人生被害に対する賠償責任がある」というものです。隔離法は1996年に廃止されたので社会に戻ればと思われるでしょうが、差別の壁だけが残りました。またここは療養よりも収容所で自給自足の生活でした。しかし国がすることに不平不満は出せません。国の政策によって家族も多くの被害を被ってしまいました。

（次号へ続く）文責／編集部

◆　◆　◆　◆

【訂正】
5月号（No.19）山県順子様の文中、誤植がありましたのでお詫びと訂正を致します。
10行目　編策→編集
23行目　日本語→口語訳

編集後記

きれいな鯉のぼりのハガキを戴きました。少しご紹介。「共に生きるを発行してくださりありがとうございます。先日Yさんにカンパをことづけ、御礼の言葉をS様から頂きました。…母は96才になりデイケアで歌を歌っております。母からいろいろと学びます。」お母さまに対する優しいお気持ちが溢れ出た内容でした。返信には「あるシスターから、人は年輪を重ねるほど成長すると聞きました。」と書きました。激動の時代を体験した方々の足跡を辿ることは、未熟な私を導く明日の糧。「南京虐殺の真相」を学び後世に伝えるのは“戦争を知らない世代”の役目でしょう。（瀬下）